てのたまひけるハ秀吉越中をのこらす伐従ひ
こゝ労ひに帰て南国へ乱入せらるゝ事もありけら
ん然るを蔵水の城に河賀修理亮居主とハいへとも
是又武少将なれ共勢ハあるへくもなく係に八
千六百騎を引率して名立浦伏鬼伏なと云所
へあたりたまひ上道廿里の所て二日に押て蔵水の
こなたに丸田伊豆守か散川の城に居たまひ付ける
にて椎子をみん合たまひ候る所に秀吉佐々内蔵助
成政を攻しくたまひ候に一旦静謐して是より之
越ひ上杉景勝と和睦して無二の約を成さるへし

そて石田治部少輔三成木村弥一右衛門只二騎石近親
兵之旗八人にて越中の富山を出市振より親知
不子知を宮田猶延し青海川にあたり多くの
切所を経て五月十三日辰の刻に蔵水の城下に
居たまひけり形て秀吉公河賀修理亮に御方に
使者上杉ハ秀吉の使者として木村弥一右衛門尉
是迄参りけれハ城に乱入らるへくや付所へ出馬まし
居きや河賀是のに対面して早く上し給へ速也
治候ましけれハ修理亮承知断尾に出合けり秀
吉河賀を矢の下なける所へ呼入のたまひけれハ